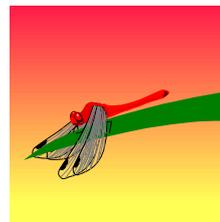


## BPT (バイオマスプロジェクトチーム) だより No.1 2

[http://www.pref.chiba.jp/syozoku/e\\_ichihai/bio/biotop.htm](http://www.pref.chiba.jp/syozoku/e_ichihai/bio/biotop.htm)



平成 17 年 10 月 14 日 (金)  
バイオマスプロジェクトチーム  
(環境生活部資源循環推進課)

### 1. アメリカ・ウィスコンシン州におけるバイオマス事情報告

平成 17 年 9 月 8 日～16 日に千葉県の子供州である米国ウィスコンシン州へ友好使節団が派遣されました。この使節団にバイオマスプロジェクトチームからも 1 名参加し、バイオマス関連施設を視察してきましたので、その概要を報告します。

#### ○ 視察した施設及びその概要

ウィスコンシン州滞在期間に、

- ・ トウモロコシを主な原料とするエタノールの生産施設 (自動車燃料用)
- ・ 家畜ふん尿のバイオガス化施設
- ・ ゴミを活用したメタンガス化及びコンポスト化等、8 箇所のバイオマス関連施設を視察する機会を得ました。

牛ふんのバイオガス化施設



#### ○ 視察した後の感想

- 1 木質ペレットや家畜のふん尿を利用したメタンガスによる発電は日本で行われている手法と大きな違いはなかったように思われますが、規模が大きいため、施設建築コストの低減は図られていました。
- 2 エタノール生産の主原料は、アメリカが世界有数の生産量を誇るトウモロコシであり、日本において同じ方法でエタノールを生産することは困難であると思われました。そこで、千葉県においては、他のバイオマス資源からのエタノール生産について研究する必要があります。



エタノールの原料であるトウモロコシを貯留する巨大な施設

○ 今後の交流の進め方について

現在は、お互いの国の関係機関の視察が中心となっているが、今後はバイオマス資源の利活用についてお互いに共同研究が図られればよいと思いました。

堂本千葉県知事及びドイル・ウィスコンシン州知事立会いのもと開催されたかずさ DNA 研究所とプロメガ社との共同研究調印式



## 2. 国・大学・市町村等との連携

○ (独) 産業技術総合研究所「地域 LCA (ライフサイクルアセスメント)」検討会

今年度第 3 回目となる標記検討会を実施しました。千葉県内での畜産農家に関わるバイオマスの循環利用等について意見交換を実施しています。(9月22日)

○ 大多喜町新エネルギービジョン策定委員会への参加(9月26日)

標記委員会へ参加し、県バイオマス利活用推進への取り組みの説明を行いました。

○ 第 4 回「山武町バイオマスタウン構想推進委員会」への参加

9月25日(日): 山武町と千葉大学園芸学部の間でバイオマスタウン構想推進と調査研究で協力しあう「相互協定」を締結

9月26日(月): 山武町がバイオマスタウン構想を関東農政局へ提出  
上記の動きを受け、第 4 回標記委員会が開催されました。(10月5日)



委員会当日は、東金市で県が実施している「木質バイオマス利活用実用化促進事業」の炭化炉、事業実施が予定される日向の森の視察及びバイオマスタウン構想の実現に向けて今後事業をどのように図るかについて委員間での討議が行われました。

炭化炉視察

## 3. 普及啓発活動・その他

○ バイオマス講習会等の実施

バイオマス利活用推進への普及啓発を図るための講習会等を実施しています。

- ・ エコメッセへの参加(9月18日)
- ・ 芝山町住民を対象とした講習会の実施(10月6日)